

11月26日のウクライナ情報

安齋育郎

①ザハロワ、ボレル EU 外相の記事タイトル「嵐の真っ只中で」に隠された意味に注目 (2023年11月21日)

ロシア外務省のマリア・ザハロワ報道官は、欧州外交のトップがウクライナの EU 加盟の必要性を改めて強調した記事「嵐の真っ只中で」のタイトルが、成人向け映画のタイトルを連想させると述べた。これに先立ち、ジョゼップ・ボレル氏は EU 外交部の公式サイトに「嵐の真っ只中で」というタイトルの記事を掲載した。その中で彼は、ウクライナにとって最大の安全保障は EU 加盟であると強調した。ザハロワ氏は、これはボレル氏の母国スペインで撮影された 70 年代のエロティックな映画『El ojo del huracán』の英語タイトルであると指摘した。

「この映画が公開されたとき、スペイン人のジョゼップは 24 歳でした。なので、それを見たことは理解します。でも、なぜこんなにはまったのか理解できません。この映画の主題では、若く裕福な女性ルツは、エロトマニアのポールに夢中になったため、気遣いのできる夫ミシェルとの離婚を決意します。その後、ルツは殺意を抱かれ、定期的にレイプされます。ウクライナと何の関係があるのでしょうか？」と、ザハロワ氏は、自身のテレグラム・チャンネルで書いている。



<https://sputniknews.jp/20231121/17702334.html>

②ロシアがウクライナに関する和平交渉を拒否したことは一度もない＝プーチン大統領 (2023年11月22日)

ロシアのプーチン大統領は 22 日、オンライン形式で開催の 20 カ国・地域(G20)首脳会議で演説し、ロシアがウクライナとの和平交渉を拒否したことは一度もなく、ウクライナが交渉プロセスからの撤退を公に発表したと述べた。

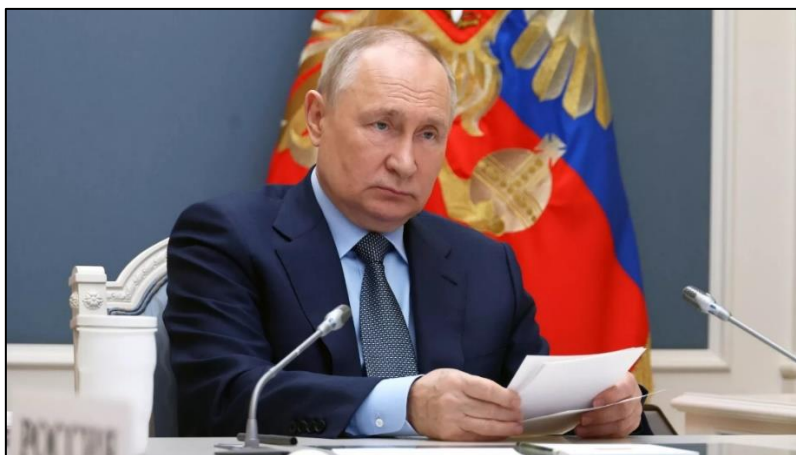
プーチン大統領の演説要旨

- ・プーチン大統領は、ウクライナにおける犠牲者も衝撃的だが、パレスチナにおける民間人の根絶も衝撃を与えている。
- ・ロシアはウクライナで正義を達成しようとしている。
- ・ガスパイプライン「ノルドストリーム」の爆破は国家的なテロ行為だ。
- ・ロシアは食料輸出の分野における自国の義務をすべて履行している。

- ・ロシアは無償で提供するロシア産穀物を積んだ第一陣の船団をアフリカに送った。
- ・ロシアは、世界におけるオープンかつ互恵的な協力の精神の復活を支持している。
- ・世界経済のストレスは、ロシアではなく、別の大国の行動と関係している。
- ・22日、G20議長国のインド主催によるG20首脳会議がオンライン形式で開催された。

会議の議題は、世界経済の現状や世界の金融情勢、気候変動問題、デジタル化。これより先、ロシアのペスコフ大統領報道官は、プーチン大統領はG20首脳会談で「非常に不安定」な現在の世界情勢に関するロシアの立場を述べる意向だと発表していた。

インドの議長国の任期は11月30日まで。12月1日からはブラジルがG20の議長国を務める。



③ドネツクのコンサートをウクライナ軍が攻撃(2023年11月23日)

ウクライナ軍はDPRでコンサートが開催されていた建物を攻撃した。

スタジオは、女優のポリーナ・メンシクさんが襲撃により死亡したと報じた。悲劇はスタロベシエボで起きた。

エカテリンブルクの政治戦略家プラトン・ママトフ氏は、「ウクライナ軍はボランティアの車を破壊し、アーティストのいる楽屋とステージを破壊した」と述べた。

人々が瓦礫の下から引き上げられ、援助が提供され始めた後、ウクライナ軍は再び攻撃した。

<https://twitter.com/i/status/1727470834091258108>



⑤ウクライナの苦戦、プーチン氏に勝利のチャンスー兵器も注目も遠のく(ブルームバーグ、2023年11月25日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は9月下旬、北大西洋条約機構(NATO)のブリュッセル本部訪問についてストルテンベルグ事務総長と協議した。ウクライナに軍事支援を提供している国々と会談し、大きな成果を生めなかった今夏の反攻の後も兵器供給を維持することが目的だった。

ロシア侵攻後初のNATO本部訪問をゼレンスキー氏が果たした10月11日までに、その使命はいっそう緊急の度合いを増した。この4日前にイスラム組織ハマスがパレスチナ自治区ガザからイスラエルを攻撃し、イスラエルは報復を開始。中東での紛争が注目の的となっていた。

ウクライナを支援する約50カ国から成る「ラムシュタイン・グループ」の国防担当相は、今週再びバーチャル形式で会談した。ウクライナ支援があらためて表明されたものの、兵器供給の遅れや、国内政治により金融支援が滞る中で、当局者間の雰囲気は以前よりも暗かったという。ゼレンスキー氏がブリュッセルを訪問して以来、ウクライナにはなんとかして勝利への道筋を描き出すよう圧力が高まっている。

再び冬を迎える中で弾薬は不足し、戦況は厳しさを増している。もう一つの懸念は人手だ。ロシアは犠牲を払いながらも次々と兵士を前線に送り込んでいるが、ウクライナはそうすることに消極的だ。

ウクライナのザルジニー総司令官がこう着状態だと認める戦争に、余力に乏しい資源を今後も投入し続けることができるのか、戦場から離れたところで米国と欧州は疑問を抱き始めている。

ウクライナ政府の意向に詳しい複数の関係者によると、米大統領選まであと1年と迫り時間がなくなりつつあることと、戦況の好転がパートナー国の支援増強を容易にすることを同国政府は認識している。だが、ハマスが攻撃した10月7日の前ですらも、ウクライナ当局者は関心の低下を感じていたと、関係者は述べた。

ゼレンスキー大統領は、ウクライナ軍が冬の間も戦闘を続ける準備を進めていると支援国に説明することに先週1週間を費やした。今月16日には大統領府で「今は西側からの支援確保に集中している」とし、西側の「注目は中東やその他の理由で移りつつある。支援がなければ、事態は悪化する」と述べた。

前線は1年にわたり大きくは動いていない。極めて重要な弾薬の供給で欧州の取り組みが失速しつつある一方、米国を中心に政治的な支援疲れの兆しは増えている。

支援の不足や先細りはゼレンスキー氏に尚早な和平協議を強いることになりかねず、さらに悪い場合にはロシアに軍事的な突破を許し、プーチン氏が交渉に応じる必要を感じなくなる展開があり得る。

プーチン氏の意図を長年警告してきた東欧の一部の指導者は、こうした展開を恐れている。ロシアはウクライナ国境では止まらず、西側はいまだに危険の深刻さを完全に理解していないと主張する。

ウクライナ支援国は防衛を十分真剣には捉えていないとのシグナルを発しているリスクがあると、エストニアのカラス首相は先月の欧州連合(EU)首脳会議(サミット)前に発言。リトアニアのランズベルギス外相は、緊急性の欠如はウクライナに望まないロシアとの交渉を強いる恐れがあると語った。

「新たな戦車も、新たなミサイルシステムも、弾薬すらも供給されず、解決策も見いだされていない。EUは決定に何カ月もかかっている。このような状況を見るに、勝利に貢献するわれわれの集団的な能力に懸念を抱く」とランズベルギス氏は22日、同国公共放送局LRTに述べた。ロシアが北朝鮮から支援を受けているのとは比べると、「滑稽に見える」と続けた。

Stalemate in Ukraine

Since reclaiming large amounts of territory in 2022, the Ukrainian army has made limited progress on the battlefield



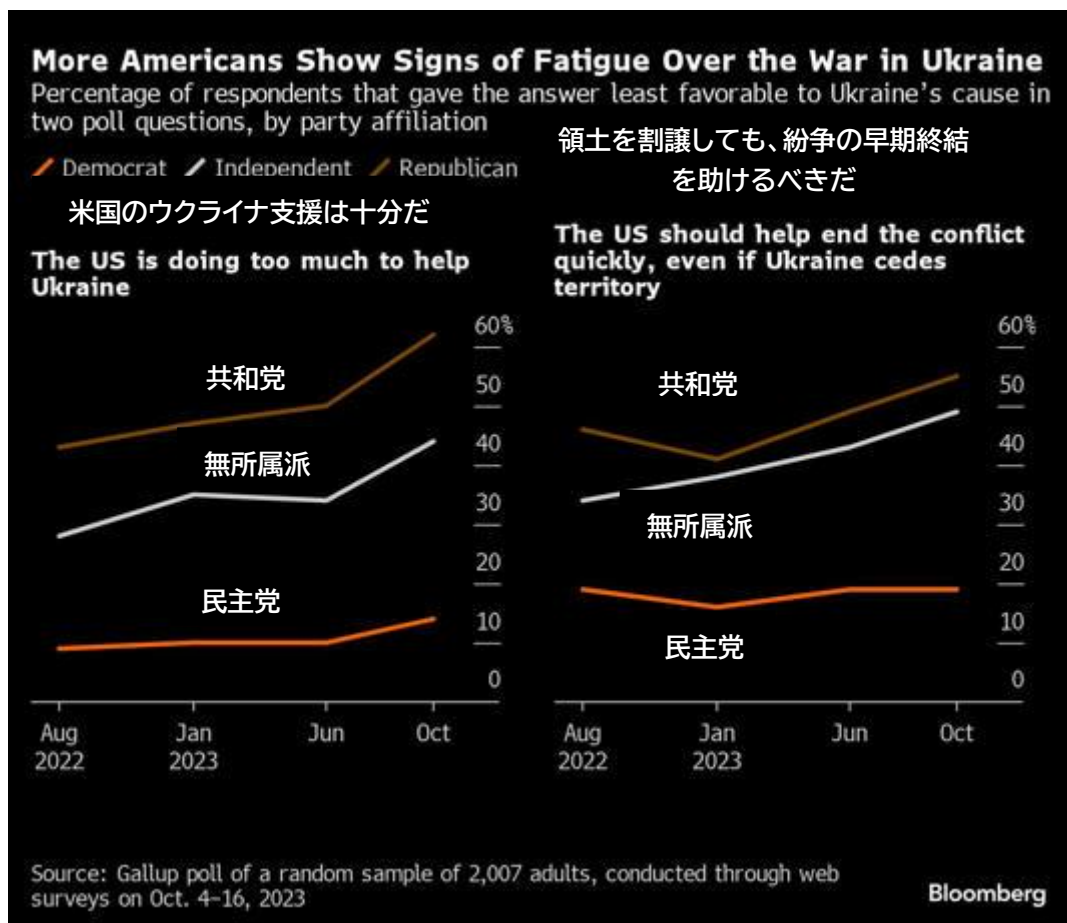
Stalemate in Ukraine | Since reclaiming large amounts of territory in 2022, the Ukrainian army has made limited progress on the battlefield

© Sources: Institute for the Study of War and AEI's Critical Threats Project; European Council on Foreign Relations

オースティン米国防長官は今週キーウを訪問し、米国の支援をあらためて確認した。だが、既存の資金枠は今年末で底を突き、共和党の保守派が下院を掌握する中で、バイデン大統領は支援継続で困難に突き当たっている。

米国防総省は今月、議会の行き詰まりにより既にウクライナ向けの兵器供給を削減せざるを得なかったと説明。バイデン氏にとって、来年の大統領選はウクライナ支援をいっそう難しくする。ウクライナへの支援提供に対し批判を繰り返しているトランプ氏が相手であれば、なおさらだ。

トランプ氏が1日で戦争を終わらせると公約する中で、戦争のこう着を有権者に売り込もうとするのはバイデン氏にとって政治的に難しいだろうと、欧州の上級当局者は指摘。11月前半に発表されたギャロップの調査によると、米国市民の41%が米政府のウクライナ支援は行き過ぎていると回答し、6月の29%から上昇した。



More Americans Show Signs of Fatigue Over the War in Ukraine | Percentage of respondents that gave the answer least favorable to Ukraine's cause in two poll questions, by party affiliation

© Source: Gallup poll of a random sample of 2,007 adults, conducted through web surveys on Oct. 4-16, 2023

戦争の長期化で、ロシアは自らが有利な方向に流れが移ってきていると見なしている。事情に詳しい在モスクワの関係者が語った。ロシア側の見方では、プーチン氏にはいま選択肢が2つある。消耗戦を続けて相手とその同盟国を根負けさせるか、春に大規模な攻勢を新たに仕掛けるかだ。後者を選ぶなら、不評を買うであろう大規模な動員が必要になる公算が大きい。

ゼレンスキー氏は和平交渉の戦略をまだ考えてはいない様子だ。だが世論調査によると、平和のためロシアへの領土割譲はやむを得ない対価だとの考えを受け入れるウクライナ市民の割合が、少数ではあるが増えつつある。

ウクライナは同盟国の一部が戦闘の規模を完全には理解せず、反攻を停滞させたロシアの防衛線の強力さを過小評価していることに不満を募らせている。ゼレンスキー氏の側近の1人は、期待が高過ぎたと語った。

<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%8A%E3%81%AE%E8%8B%A6%E6%88%A6-%E3%83%97%E3%83%BC%E3%83%81%E3%83%B3%E6%B0%8F%E3%81%AB%E5%8B%9D%E5%88%A9%E3%81%AE%E3%83%81%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%82%B9-%E5%85%B5%E5%99%A8%E3%82%82%E6%B3%A8%E7%9B%AE%E3%82%82%E9%81%A0%E3%81%AE%E3%81%8F/ar-AA1ktMrl?ocid=msedgdhp&pc=LCTS&cvid=f0db771ae1c043d59150575a1d4e9347&ei=7>

⑥ウクライナ反転攻勢は停滞、徴兵逃れで徒歩や川を泳いで2万人出国か…BBC報道（読賣新聞オンライン、2023年11月18日）

ウクライナ海兵隊は17日、南部ヘルソン州のドニプロ川東岸での作戦に成功し、ロシア軍が実効支配する地域で複数の拠点の足がかりを得たとSNSで明らかにした。ウォロディミル・ゼレンスキー大統領も東岸で作戦遂行にあたる兵士の写真をSNSに投稿し、兵士らを称賛した。

ウクライナの反転攻勢は停滞しており、戦果を公表することで米欧の継続的な支援を求める狙いがありそうだ。英BBCロシア語版は西側高官の話として、ウクライナ軍がドニプロ川東岸から最大4キロメートルほど内陸に進軍したと指摘した。ただ、兵力が数百人程度と少なく、装甲車の渡河も困難なため、大規模な領土奪還につながる可能性は低いとの分析を伝えた。

ウクライナ軍は10月以降、ドニプロ川東岸への渡河作戦を本格的に展開してきた。当局によると、約1か月で露兵1216人を殺害し、2217人を負傷させたほか、戦車や装甲車などに損害を与えている。

一方、英BBCは17日、ウクライナで2万人近くの男性が徴兵を逃れるため、国外に出国したと報じた。夜間に徒歩で国境を越えたり、川を泳いで渡ったりしたという。戦争の長期化で犠牲者が増え続け、兵員の確保が課題になっている。

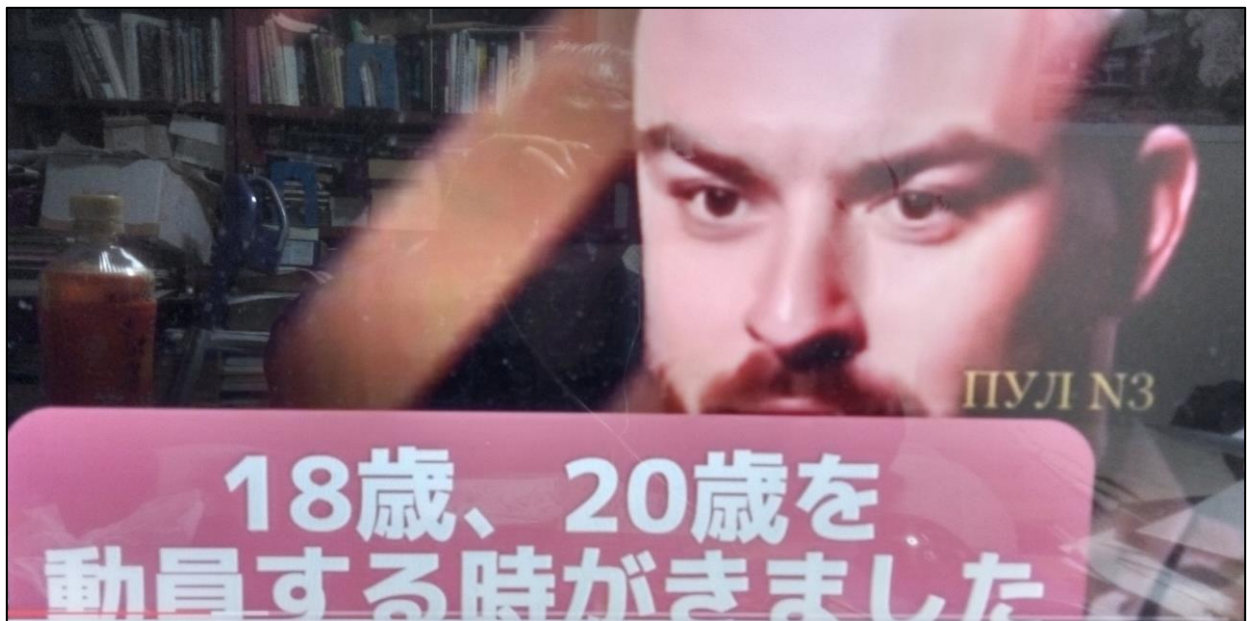


ドニプロ川東岸で活動するウクライナ軍兵士(ゼレンスキー大統領のXより)
<https://www.yomiuri.co.jp/pluralphoto/20231118-OYT1I50094/>

⑦【ロシアニュース解説】追い詰められたゼレンスキー政権の究極の選択!!～ポーランド国境渋滞 53km(2023年11月25日)

<https://youtu.be/peQhHIYiHL4> 約30分の日本語の「ロシア・ニュース解説です。

表題はごく一部のニュースで、ついに来たウクライナの学徒動員や最近の前線報告や外国要人のウクライナ訪問を含めた包括的なニュース解説です。



<https://www.youtube.com/watch?v=peQhHIYiHL4>

⑧【ロシアニュース解説】米国防総省長官がキエフ訪問!!～ゼレンスキー大統領を利用する米民主党【2023年11月23日】

<https://youtu.be/gJHF5HQI70> 26分余りのロシア・ニュースです。日本語です。



<https://www.youtube.com/watch?v=gJHF5HQI70>